



学校法人志賀学園
認定こども園
平第一幼稚園
令和7年8月29日

朝晩は少しずつ涼しくなってきましたが、日中はまだまだ暑い日が続いております。

今日から9月に入り、朝晩も少しずつ肌寒い気候となって参りました。

さて、9月の行事として代表的なものとして「敬老の日」と「秋分の日」があります。

敬老の日は「多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝う日」とされています。

つまり年長の方やお年寄りの方を敬い、感謝を伝える日であると言い換えることができそうです。敬老の日の由来については諸説あるようですが、一般的には「としよりの日」が制定されたのがはじまりだと言われています。

その後「としよりの日」は全国に広まり、「老人の日」へと名称が変更されたのち、1966年に国民の祝日として「敬老の日」が制定されたそうです。

また、敬老の日が当初9月15日に制定されたのには、聖徳太子が関係しているとされています。

593年の9月15日、聖徳太子が大阪の四天王寺に、悲田院という病気の人や貧しい人々を救うための施設を設立したようです。そして、これに由来して9月15日に敬老の日が制定されたと伝えられています。

「秋分の日」は、1948年（昭和23年）に公布・施行された国民の祝日に関する法律（「祝日法」、昭和23年法律第178号）によって制定された祝日です。同法第2条では「祖先をうやまい、なくなった人々をしのぶ。」ことを趣旨としています。

1年の中で昼と夜の長さが同じになる日が、春と秋の2回あって、そのうちの“秋の方”を秋分（しゅうぶん）と呼びます（厳密に言うと秋分は少しだけ昼の方が長いそうです）。秋分の日を中日として挟んだ7日間を「秋彼岸」といいます。

おはぎやおだんごなどをお仏壇にお供えしたり、お線香をあげたり、お墓参りをする風習（昔からおこなってきたこと。ならわし）があります。

お墓で眠っているご先祖様に、「わたし（ぼく）はげんきだよ。いつも見守ってくれてありがとう。」など挨拶をします。

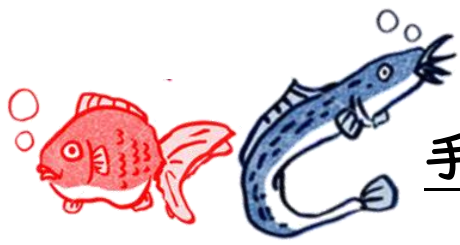
秋分は簡単に言うと「秋を分ける」ということ。この日を境に、暑い夏から涼しい秋へと変わり初め、夜の長さが長くなっていきます。

「子どもたちから見られる」

2学期が始まり、1学期よりもたくさんの行事・経験が得られる時期になってきます。特にさくら組さんは、祖父母参観や運動会、かみね動物園への遠足、作品展に生活発表会と行事が盛り沢山です。

行事だけでなく、日々の遊びや活動の中でクラスの先生やお友だちと自分の気持ちを織り交ぜながら話を進め、決め事をする機会が増えてきます。1学期も夏まつりのお神輿つくりの際に、「どんなお神輿を作るのか」、「どうしていききたいのか」などを子どもたちが中心となって決めました。もちろん話し合いの中で思い通りにいかないことや意見を伝えても共感してもらえない時もあり、情緒面でも様々な葛藤も見られました。ここで大事なことは先生が何でも答えを出したり、決めたりしないことです。困ったときには先生に「どうしたらいいのかを聞く」という経験も就学に向けてだけでなく、これから大人になっていく中で、そして今の「主体性を育む保育」の重要な部分にも繋がっていきます。ご家庭に帰ってから園での出来事を話す中で良いことだけでなく、嫌だったことも話す時もあるかと思いますが、「じゃあ先生に言ってあげるね」ではなく、大好きなご両親に話をしたということは、その思いに共感してほしいサインですので是非、共感し、受容していただければと思います。これから運動会では鼓隊への取り組み、リレーのチーム決め、作品展で作りたいテーマを決めたり、生活発表会では役決めをする中で「こども会議（話し合い）」を行っていきますので温かく見守っていただければと思います。

坂本 卓哉



手作りビオトープ・遊び場作りについて



こども園では、夏休みが明け、1号認定のお友だちも登園し、より賑やかな雰囲気の中で子どもたちの楽しそうな声が響き渡っています。さて、8月の夏期保育期間中に、公益社団法人こども環境学会の先生方にお越しいただき、職員室前に計画中の「ミニ庭園作り」に関して助言等をいただきました。園舎周辺の田んぼや畦道などの自然環境に合わせ、園庭にも草花だけでなく、樹木の植栽や築山作り、ビオトープなども併設し、より子どもたちが自然環境に触れられる機会を多くできるよう活動を進めているところです。

先日、バスの先生と一緒に雨どいから雨水を貯水できるタンクを設置しました。その雨水を利用して、ビオトープ池の水の循環、花の水やりに活用するなど、子どもたちに自然と水の大切さや循環の仕組みなどを知ってもらえるよう環境を整えました。お迎えの際には、保護者の皆様にもご覧いただければと思います。

また、ビオトープにいる魚やヌマエビは、近くの用水路から見つけてきました。生き物の生態系は、十数年前とはまったく違い、ゲンゴロウやタガメなどもほとんど見られなくなっていました。このような生き物の生態系を守っていくためにも幼児教育に携わる施設としても、身近な環境で子どもたちが触れられる機会を多く取り入れることで、自然と意識を高めていけると考えています。

5月に子どもたちと一緒に植えた芝も根がしっかりと生え、バッタやカマキリの赤ちゃんなど芝広場の部分に生態系が形成されつつあります。子どもたちも嬉しそうにバケツや虫かごを片手に虫探しを楽しんでいます。ガーデニングクラブのお母さんたちと一緒に植えたきれいな草花も、花びらが枯れると色水の材料に使うなど多様な遊びが経験できる場となっています。



ビオトープは各水槽にメダカや園舎近くで捕まえた川魚、ヌマエビなどが生息しています。また、上記左側の雨どいからタンクに雨水を溜め、その水をろ過して、ビオトープ池の水として再利用しています。また、水槽の水位が一定の量に達すると次の水槽へ排水管を通して流れていく仕組みを作りました。最終的に上記右側の水槽に溜まった水は、花の水やり用に使用することで、水を余すことなく活用して子どもたちにも循環の流れや資源の大切さについても伝えるきっかけとなります。